

令和3年度 第2回北海道立文学館運営評価委員会

開催日時 令和4年3月17日(木) 13時30分

開催場所 北海道立文学館 地階講堂

I 次第

- 1 主催者挨拶
- 2 議題
 - (1) 令和4年度事業計画(案)について
 - (2) その他

II 出席委員

(敬称略:50音順)

氏名	区分及び所属等
大澤 隆義	【地域関係者】 中島公園管理事務所長(中島公園地域コミュニティ推進協議会 事務局長)
辰巳奈優美	【利用者】 公益財団法人北海道文学館賛助会員(俳人協会北海道支部 理事)
渡部 浩士	【学校教育関係者】 札幌市立新川西中学校長(北海道学校図書館協会 会長)

※欠席委員

上野 靖	【社会教育関係】 公益財団法人北海道生涯学習協会 専務理事
------	----------------------------------

III 委員からの意見等

委員)

ただいま、お話を伺ってわくわくというか、楽しみな感じがあります。来年度も見せていただきたいという気持ちが強くなりました。

特別展の数々も、盛況になるだろうなと思うのがたくさんあります。

個人的には地図を見るのとても好きなので、「地図と文学の素敵な関係」が楽しみです。

金子みすゞのファンは今でもたくさんいますので、皆さん懂れる、期待していたところです。

ひとつお伺いしたいのは、楽しみに思っている「ぶらり文学散歩」ですが、中島公園や大通公園、このあたりに文学の足跡があるということですが、どんなところにどんなものがあるのか少し教えていただきたい。

事務局)

中島公園ですと、池の辺りはいろいろな小説で書かれています。

大通公園は、石川啄木が札幌に来ており、その文学碑もあり、ゆかりの場所を巡っています。札幌駅前にあったホテルもいろいろ登場しています。

文学碑はそんな多くありませんが、美術のモニュメントも交えて歩けると思います。

過去には道庁赤れんが付近について、佐々木譲の作品などで紹介したこともあります。

北大植物園に関しては渡辺淳一の「リラ冷えの街」などもあるので、今後もそういったものを探し出して紹介したいと考えています。

委員)

札幌市以外のマチへ観光に行ってもその土地のゆかりの作家がいると文学散歩したくなります。

それと同じように、この界隈に足跡を辿れるところがあって、歩きながら説明を聞くというのはとても良い企画だと思い、楽しみにになりました。

事務局)

これからは観光とのつながりも重要視されてくるので、今後は観光のことも少し念頭に置きながら事業を展開して参りたい。

委員)

映画ロケ地もあると思うので映画文学とのコラボするのも若者を結構引きつけたいと思います。

委員)

常設展のアーカイブ第5期「熊のいる風景」は北海道だからヒグマとの関わりで企画されたのでしょうか。これは絵本もあるようですが。

事務局)

開催時期は悩みましたが、小説や絵本などいろいろ登場しており、かかわりの深い動物として取り上げたいと考えたところです。

委員)

学校現場もGIGA(ギガ)スクールということでコンピュータを導入する機会がありました。流れがデジタル化しています。ここ道立文学館には豊富な資料がありますので、それらをどれくらいデジタル配信しているのか調べたところ、「北海道デジタルミュージアム」で文学館の資料を閲覧できるようになっていました。このデジタル資料閲覧の動きはもっと高まると思うので、これからも取組を進めていただきたい。著作権など運用の難しさもありますが、「JAPAN SEARCH(ジャパンサーチ)」というWebサイトがあり、これは日本中の博物館などが繋がっていて、必要なデジタル資料を閲覧できる仕組みになっています。その関係機関への仲間入りしてデジタルで閲覧できるようにすると日本中から見たいという人が増えるのではないかと思います。

事務局)

北海道庁の「北海道デジタルミュージアム」は、道内の博物館や美術館などの施設情報や、収蔵されている遺物、化石、絵画、彫刻など資料・作品を集約、デジタル化し、その魅力を発信する横断検索ポータルサイトとなっています。

博物館法の改正案によると、資料のデジタル化も博物館事業として位置づけられており、これからも一層デジタル化は取り組まなければならないと考えています。

映像で見るだけでなく実物を見てみたいという人が多くなると来館にも繋がると考えているところです。